

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
高知県教育委員会

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
高知県	特別支援学校	病弱	高知県立高知江の口特別支援学校
高知県	特別支援学校	聴覚	高知県立高知ろう学校
高知県	特別支援学校	知的	高知県立日高特別支援学校

2. 事業の実績

(1) - ①事業の実施日程【高知江の口特別支援学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成 31 年 4 月	○成果と課題、年間研究計画を教職員間で共有 ○「主体的・対話的で深い学び方シート (試案)」、指導略案様式、授業評価票及び学習者の振り返りシートの改良について検討	
令和元年 6 月～7 月 令和元年 7 月 8 日	○授業研究 (第 1 回公開授業 全教員) 実施及び課題検討 ○発達障害の理解と支援に関する専門性の向上研修「ASD、ADHD、読み書き障害について」 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏	授業評価 (自己評価、参観者評価) と学習者評価を行い、ICT 機器の活用に関する肯定的意見が多かった。 学校生活アンケートでは、「勉強はわかりますか」の回答で、分かるが 21.7%、まあまあ分かるが 65.2%、余り分からないが 4.3%、ぜんぜん分からないが 8.7% であった。
令和元年 8 月 7 日 令和元年 8 月	○病弱教育における「主体的・対話的で深い学び」に関する校内研修「ICT 機器の効果的な使い方」 関西学院大学 教授 丹羽 登 氏 ○「学び方シート (試案)」の改良及び 2 学期の研究の進め方について検討	外部専門家による講評から、2 学期に向けての課題を整理することができた。

令和元年9月27日	○発達障害の特性と ICT 機器等を活用した指導に関する事例検討① 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏	
令和元年10月～12月	○授業研究（第2回公開授業 全教員）実施及び課題検討	授業評価（自己評価、参観者評価）と学習者評価から、教材の選定等 ICT 機器の効果的な活用方法について確認できた。
令和元年11月27日	○発達障害の特性と ICT 機器等を活用した指導に関する事例検討② 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏	学校生活アンケート「勉強はわかりますか」の回答で、分かるが28.6%、まあまあ分かるが57.1%、余り分からないが4.8%、ぜんぜん分からないが9.5%であった。
令和元年12月25日	○授業実践事例「授業内容シート」の作成 ○教育課程研究集会（病弱部会）の実施、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教員の工夫、手だて、しかけについて協議	グループワークによる自己評価を行い、成果や課題を整理し、授業実践事例を「授業内容シート」としてまとめた。
令和2年1月29日	○特別支援教育に関する実践研究事業指定校連絡会（WEB会議）で研究の経過及び成果と課題について報告	学校評価アンケートでは、前年度よりも肯定的な回答が増加した。
令和2年2月17日	○発達障害の特性と ICT 機器等を活用した指導に関する事例検討③ 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏 ○先進校の研究報告会への参加と視察 ○研究のまとめと次年度に向けての計画作成	外部専門家（大学研究者）より、校内研修における事例検討協議のレベルが高く、多様な視点、多様な方法での支援方法の提案があった、学校全体で授業改善の意識やスキルの向上が進んでいるという評価をいただいた。

(1) -②事業の実施日程【高知ろう学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成31年4月	○前年度の取組で得られた成果と課題を全校で共有し、年間研究計画を確認 ○外部専門家との研修会の内容の詳細検討	
令和元年5月21日	○手話研修会①（連絡事項に関する手話単語）	

	<p>○専門性向上研修会 「聾学校におけるコミュニケーションの評価の観点や評価方法の在り方について」 講師 本校教頭 山中 智子</p>	
令和元年6月11日	<p>○手話研修会②（氏名や式典の手話） ○「主体的・対話的で深い学び」に関する公開研究授業を実施 ○教科領域研修会（聾学校における ICT 活用法、実践事例や今後活用したい教材の紹介） ○みらいスクールステーション（電子情報ボード）説明会</p>	<p>生徒に対しての授業アンケート（18 項目）では、4 段階評価の 4 と 3 の肯定的な評価を合わせると 92% だった。特に、ICT 機器活用についての項目では、使用して分かりやすかったとの評価が多かった。</p>
令和元年 7 月 29 日	<p>○寄宿舎手話研修会③④⑤（日常生活や社会生活に必要な手話）（3 回実施） ○手話研修会⑥（式典の手話） ○各学部で 1 学期の成果と課題のまとめ及び 2 学期以降の研修計画を確認</p>	<p>ポートフォリオ評価を活用し、各学部において、授業場面などで幼児児童生徒の変容を考察した。</p>
令和元年 8 月	<p>○外部専門家講師を招き、授業づくりについての研修会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的に学ぶ力を育てる授業づくり」 ～育成すべき資質・能力と学習評価の充実～ ・「ことばの力を育てる環境づくり」 ～主体的・対話的で深い学びにつながる教材・教具の開発～ 金沢大学人間社会研究域学校教育系 教授 武居 渡 氏 ・「聴覚障害教育における『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業づくり」～効果的な ICT の活用について～ 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 講師 大鹿 綾 氏 	
令和元年 9 月 6 日	<p>○外部専門家講師を招き、授業づくりについての研修会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業場面での手話を活用した効果的なことばの獲得について」 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授 脇中 起余子 氏 	<p>外部専門家による助言をもとに、2 学期に向けての課題を整理することができた。</p>
令和元年 9 月 17 日	<p>○手話研修会⑦（式典の手話・歌の手話） ○オンテナ（音を体で感じるデバイス）体験版取</p>	

令和元年 9月 27日	<p>り扱い説明会 富士通株式会社 東京オリンピック・パラリンピック推進本部</p> <p>○県教育委員会主催による教育課程研究集会（聴覚障害部会）を実施</p>	
令和元年 10月 15日	<p>○手話研修会⑧（式典の手話）</p> <p>○教科領域研修会（公開研究授業に向けた ICT 機器の活用についての教材研修）</p>	
令和元年 11月 19日 令和元年 11月 5日 11月 18日 11月 22日 12月 2日 計 4回	<p>○手話研修会⑨（日常会話の向上）</p> <p>○外部専門家講師を招き、ICT 機器の活用についての研修会を実施（各学部 1回 計 4回） ・「幼児児童生徒の実態に応じた ICT の活用について」 講師 酒井 瑞雄 氏</p> <p>○教科領域研修会 （ICT 機器活用の実践の振り返り・効果的であった活用方法の紹介）</p>	
令和元年 12月	<p>○第 1 回校内手話検定を実施した。（単語と短文の読み取りの筆記試験）</p> <p>○各学部で 2 学期の成果と課題のまとめ及び 3 学期以降の研修計画を確認</p>	<p>校内手話検定による手話力の評価を行った。</p> <p>児童生徒アンケートでは、「授業がよく分かる」の項目では、「そう思う」と回答した生徒の割合が、昨年度 36%から 58%に向上した。「ややそう思う」を含めると 100%であった。</p>
令和 2 年 1 月 令和 2 年 1 月 14 日 令和 2 年 1 月 29 日	<p>○専門性向上研修会 情報保障（要約筆記）について</p> <p>○学部ごとに授業改善シートを作成</p> <p>○手話研修会⑩（校歌の手話・授業場面での活用）</p> <p>○特別支援教育に関する実践研究事業指定校連絡会（WEB 会議）で研究の経過及び成果と課題について報告</p>	<p>高知ろう学校授業のスタンダード票について見直しを行い、活用しやすいように書式を変更した。</p>
令和 2 年 2 月 4 日	<p>○第 2 回校内手話検定を実施した。（聴覚障害者協会から派遣された検定員によるスピーチと質問への返答の面接試験）</p>	<p>校内手話検定の取組について、検定員からは手話力の維持・向上につながっていると評価された。</p> <p>教員に対して手話アンケ</p>

令和2年2月～3月	<p>○研究の成果及び課題のまとめと、次年度の研修計画</p> <p>○授業改善シートを作成</p>	<p>ートでは、「手話力が向上した・やや向上した」と感じている教員が77%であった。</p> <p>中学部において、4名の生徒が受験した教研式Reading-Testの結果では、読書力偏差値が昨年と同程度に推移しており、この1年間で1学年分の成長が確認された。</p> <p>1年間の成果と課題を整理し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善シートを作成した。</p>
-----------	--	--

(1) - ③事業の実施日程【日高特別支援学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成 31 年 4 月	<p>○前年度までの取組で得られた成果の確認及び年間計画について全校で確認</p> <p>○日高特別支援学校のキャリア発達段階表等の各種ツールを活用し、児童生徒の実態把握を行い、指導計画を作成</p>	<p>校内研究における年間計画を確認した。</p> <p>児童生徒の実態把握を行い、個別の指導計画を作成した。</p>
<p>令和元年 6 月 7 日</p> <p>令和元年 5～6 月</p>	<p>○群馬大学教授霜田浩信氏を招き、知的障害特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業づくり、事後協議で「学習過程分析表」の活用方法についての研修</p> <p>○研修内容をもとに、各学部、学習グループで公開研究授業（1 回目）を実施した。管理職、学部主事で構成した授業改善チームによる指導・助言の実施</p>	<p>各学部で研究授業・公開授業に取り組んだ。事後協議では付せんを用いて討議を行い、改善点が具体的に示された。</p>
<p>令和元年 7～8 月</p> <p>令和元年 8 月 26 日</p>	<p>○学部研究会等で 1 学期の振り返りを行い成果と課題を整理</p> <p>○教育課程研究集会（知的障害部会）を自校で開催し、新学習指導要領、生活単元学習についての研修</p>	<p>1 学期に実施した授業研究から改善点が明らかになった。</p>
<p>令和元年 9～11 月</p> <p>令和元年</p>	<p>○1 学期の反省、1 回目の公開研究授業の結果をもとに、学部、学習グループにおいて授業研究を実施した。</p> <p>○群馬大学教授霜田浩信氏を招き、公開研究授業</p>	<p>各学部で研究授業・公開授業に取り組んだ。事後協議では付せんを用いて討議を行い、改善点が具体的に</p>

11月29日	(生活単元学習)を実施した。[知的障害の国公立特別支援学校及び地域の小・中学校、高等学校に対して公開]	に示された。
令和元年12月	○学部研究会等で2学期の振り返りを行い成果と課題の整理	
令和2年1~2月 令和2年1月29日 令和2年3月10日	○研究成果を実践集録のまとめ ○特別支援教育に関する実践研究事業指定校連絡会(WEB会議)で研究の経過及び成果と課題について報告 ○各学部の成果を校内研究会で発表した。群馬大学教授霜田浩信氏から助言があり、次年度の課題を明確化 [知的障害の国公立特別支援学校及び地域の小・中学校、高等学校に対して公開] ○研究の成果と課題等についてのまとめ及び次年度の研修・研究計画を作成	授業者全員が「学習過程分析表」を活用し、授業づくりを行い、その成果として役立った点と改善点を明らかにすることができた。 外部専門家から、授業研究の方法の確立と授業改善に向けてのチームとしての取組を授業実践、授業改善のシステムとして位置付けることができていることを評価していただいた。

(2) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、障害種別ごとの特性などを踏まえる必要があることから、その捉えや、何をねらいどのように授業を展開するのかなど、実践研究を通して明らかにしていく。

(3) 研究の概要

高知県では、平成30年度から本実践研究事業を活用し、病弱・聴覚障害・知的障害の3障害種の特別支援学校において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践研究を実施している。研究二年次の今年度は、カリキュラム・マネジメントと結び付けて校内体制を組織的に強化し、研究一年次に各校が作成した授業評価ツールを活用した授業改善を行った。また、県内9拠点をWEB会議システムでつないだ中間報告会を実施した。

【高知江の口特別支援学校】

病弱教育における「学び方シート(試案)」、授業評価票等を年2回の公開授業で使用し、全ての教員がICT機器を活用した授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」の観点による評価を行った。外部専門家を招いた研修を年5回実施し、助言を得ながら授業改善に取り組んだ。授業実践を踏まえた「学び方シート(試案)」の検討やICT機器を活用した授業実践の集約を行った。

【高知ろう学校】

児童生徒の「分かる」「できる」を大切に、手話力向上プロジェクト、ICT推進プロジェクトの2本柱で研究を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け授業改善に取り組んだ。手話力向上プロジェクトでは、年間10回、手話通訳士による実践手話研修会及び校内手話検定を実施した。ICT推進プロジェクトでは、ICT機器の活用に関する研修を実施し、「主体的・対話的で深い学び」について、

各教員が公開研究授業を実施した。

【日高特別支援学校】

「主体的・対話的で深い学び」の在り方を検討するため、研究一年次の成果をもとに「学習過程分析表」を改善、活用し、各学級、学習グループ等で「生活単元学習」の授業研究に取り組んだ。事後協議では、授業改善チーム（管理職、学部主事、研究部長で構成）からの助言の他、グループ討議を行い、児童生徒の変容について観点別評価を分析し、その効果を検討した。

(4) 研究の成果

各校がそれぞれ作成した授業評価ツールの活用によって、授業改善の視点が明確になり、「主体的・対話的で深い学び」について学校全体で共通理解が図られ、組織的な授業改善につながった。中間報告会でこれまでの研究の成果を報告し、県内8校の特別支援学校間で情報共有することができた。

【高知江の口特別支援学校】

ICT機器やアプリ等を活用した実践の概要を学部ごとに「授業内容シート」としてまとめ、実践例を蓄積できた。「学び方シート（試案）」に「具体的な姿（参考例）」を追加し、「主体的、対話的で深い学び」を実現するための教員の手だてや工夫についてまとめた資料を作成した。アンケート結果から授業改善について教員の意識や児童生徒の評価が向上した。

【高知ろう学校】

児童生徒等の探求心がめばえ、活動に見通しをもった行動、意欲的で主体的な行動が増えた。ICT機器の活用により、考えの可視化や共有ができ、思考や発言が活発になることで、学習意欲の向上や学習習慣の確立、より高い思考力・判断力・表現力を身に付けることに成果があった。また、板書量の調整等にICT機器を活用することで、教員の授業準備の負担軽減につながった。

【日高特別支援学校】

授業改善チームの助言により、事後協議の内容が充実し、改善点を具体的に学部全体で確認できた。「学習過程分析表」を改善し、事後協議でも「学習過程分析表」を協議のポイントとして活用したことで意見が焦点化され、授業改善を組織的に行うことができた。

(5) 課題と今後の方策

研究三年次は、これまでの取組を継続し、資質・能力の育成と「主体的・対話的で深い学び」を関連付けながら検証していく必要がある。

研究三年次は、実践研究の成果を県内に広める観点から、研究指定校3校の研究成果については、WEB会議システムも活用した報告会を開催し、周知していく予定である。また、研究で得られた知見を実践事例集としてまとめ、特別支援学校が行う地域支援等で活用することで特別支援教育の専門性向上に役立てていく。

【高知江の口特別支援学校】

「学び方シート（試案）」等を活用しながら授業改善の取組を行う中で、児童生徒の学びの姿の捉え方を更に深め、「学び方シート（試案）」を見直す。児童生徒に応じたICT機器の効果的な活用について検討や工夫が必要である。授業実践の検証を行い、ICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の授業実践をまとめていく。

【高知ろう学校】

授業改善シートを実際に活用し、他校の事例なども踏まえながら改善を図っていく必要がある。ICT機器の活用では、学習内容を学力として定着させるために、板書をノートに写すこと、繰り返し読むこ

となど、従来の指導方法の良さを大切にし、より教育的効果が高い方法を的確に判断し、計画的に授業を進めることが必要である。「対話的な学び」については、学び合いの場の集団も大切にしつつ、1対1の授業であっても、ICT 機器や文献等を活用し、話を深めていきたい。

【日高特別支援学校】

研究の成果物である「学習過程分析表」をどの教員も日常的に活用し、どの授業においても「主体的・対話的で深い学び」の視点が盛り込まれた授業が展開されるよう、学習指導略案の様式を示し学校全体で授業研究に取り組む。授業参観については、授業録画ビデオを用いて行い、グループ討議の時間を確保する。今後も継続し、研究体制を定着させる。また、成果を地域支援等に活用し、地域の知的障害教育の充実につなげていく。